

春 告 草

第 152 号 令和元年 9 月 18 日 進路指導部発行

センター出願が始まる！ ラ ス ト セ ン タ ー 最後のセンター試験まで122日

来年度のセンター試験出願が間もなく始まるが、現役生は在籍校が取りまとめたの一括出願となる。6年生に対しては9月4日に「出願説明会」を開き、志願票への記入の仕方などを説明した。今回がセンター試験としては最後の実施で、翌年度からは大学入学共通テストが始まる。手続きなどに関して大きな変更はないから、4年生、5年生で自分の受験に備えて予め調べておきたい場合は受験案内を入手しておくといえよう。受験案内は国公立大学の他、センター利用入試を行う私立大学の窓口でも入手できる。大学入試センターのホームページから受験案内本文をダウンロードできるので、家庭でプリントも可能である。配付されているものには、受験案内の他に検定料振込票、志願票、個人送付用封筒や出願手続きについて簡単にまとめた説明プリントなどがセットされている。送付用封筒は既卒生や大学入学資格検定合格者が使用するものだ。

今後の手続きは下記のとおり。6年生の皆さんは十分に承知しているはずなので、4年生、5年生向けに掲載しておく。

■ センター試験出願から受験までの日程

志 願 者	学 校	大学入試センター
検定料等払込み 9/2～10/10(ATM 不可) 出 願 下書きの提出 ～9/18 原本の提出 ～9/25	志願票の 点検・集約	出願受付 9/30～10/10 ※10/10 消印有効
登録内容の確認 ※登録内容に訂正がある場合は所定の訂正届を提出	確認はがきの 受け取り 集 約	確認はがき（出願受理通知）の 送付 10/28 までに到着 受付 ～11/5
登録内容の再確認 受験票・写真票に写真を貼付 試験場を確認	受験票等の 受け取りと 配付	受験票等の送付 ※12/16 までに到着
センター試験受験 令和 2 年 1 月 18 日・19 日	8 日(水)が始業式で、翌週末にセンター。もう直前だ！	大学入試センター試験 本試験実施
20 日(月)は登校して、自己採点。データリサーチ返却は 24 日(金)を予定。その後国公立大出願について再検討。	令和 2 年度大学入学希望者 大学入試センター試験 受験案内 出願期間 令和元年 9 月 30 日(月) ～ 10 月 10 日(木) (消印有効) 試験開始日 令和 2 年 1 月 18 日(土)・19 日(日) ※ 障害等のある方へのききょうの配慮を希望する場合は、「出願時申請」が必要です。 出願時申請受付 令和元年 9 月 1 日(水)～9 月 27 日(金)	正解等の発表 1/18・19 平均点等の中間発表 1/22 予定 得点調整実施の有無などの発表 1/24 予定 追試験実施 令和 2 年 1 月 25 日・26 日 平均点等の最終発表 2/6 予定 成績通知書の送付 4/16 以降 ※希望者のみ



出願説明会では長嶋副校長が冒頭に登場。副校長はセンター初年度の受験生だとか。ラストセンターを受験する 5 期生を熱く激励した。

共通テスト受験準備が始動

6年生対象にセンター試験説明会を行っていた時、5年生には同時進行で英語の資格・検定試験についての説明を行った。英語の資格・検定については、最近の大学入試制度でも「英語4技能試験活用方式」などの名称で入学者選抜が行われているが、2021年度選抜からは、これらがもっと積極的に利用されるようになる。国公立大入試は勿論のこと私立大入試でも、資格・検定試験のスコアが必要となるケースが多くなる。共通テスト元年に受験する5年生はもちろんだが、4年生生として状況によっては6年生にも必要となってくる知識であるから、一通りの情報はインプットしておこう。

共通テストとは

30年続いた「大学入試センター試験」も5期生が受験する回で最後を迎える。その前が「大学共通一次学力試験」で11年間続いた。私はさらにその前の「一期校二期校」世代で、センター世代が多い本校では、やや肩身の狭い思いだ。皆さんのお父さん、お母さんがどの世代なのかを聞いてみるのも面白いだろう。

さて、センター試験に代わって始まるのが「大学入学共通テスト」で、記述式問題の導入が最大の変更ポイントである。第138号から145号にかけて書いた記事にもあるように、国語、数学①で記述問題が導入され、24年度からは、地歴・公民や理科でも導入が検討されている。英語の筆記試験も「英語(筆記)」が「英語(筆記[リーディング])」に改められる。これまでセンターで出題されていた発音、アクセント、語句整序などを単独で扱う問題はなくなり、読解中心の出題になる。

入試制度や出題傾向、内容が大きく変わるが、教育課程の変更ではないので、既卒生への経過措置は一切ない。今から卒業後に触れるのは大変失礼だが、6年生にも知っておいてもらいたい事項である。

英語の資格・検定

21年度の大学入試改革に関して最近話題になっているのが英語の資格・検定試験だ。大学入試センターでは、これらのスコアを私立大も含めた各大学に提供するため、「大学入試英語成績提供システム」を構築したが、このシステムで提供されるのが、表に示した資格・検定試験の成績である。見ればわかるように、従来型の「英検」はリストにはなく、英検であれば「英検S-CBT」、「英検CBT」を受験することになる。しかも、現在取得している資格・検定の級やスコアは対象外で、大学を受験する年度に外部会場で受験した資格・検定試験のスコア(※)が使われる。

どの資格・検定をいつ受験するのかについては、受験年度を迎える前に決めておきたい。特に、英検S-CBTは予約申し込みが必要で、来年の4月～7月の間に受験するためには、来月7日までに申し込まなければいけない。(ただし、来年度の既卒生(6年生)には特別措置あり。)申し込みは受験者本人が英検協会のホームページから行う。

※前年度成績の利用の可否については各大学の判断によるが、令和4年度以降の選抜においては、受験年度の前年度に共通IDを利用して登録された成績も各大学に提供される。

■大学への成績提供対象となる資格・検定試験

試験名 (実施主体名)	目的・特徴	実施方式
英検S-CBT (日本英語検定協会)	従来の「英検」は英語成績提供システムの対象外で、これが最もポピュラーな試験。	RL PBT W PBT S 吹き込み
英検CBT (日本英語検定協会)	上記のCBTバージョン	RL CBT W CBT S 吹き込み
TEAP (日本英語検定協会)	大学教育で遭遇する場面を考慮して作成され、高校3年生の英語を測定するのに最適と評価されている。	RL PBT W PBT S 対面式
TEAP CBT (日本英語検定協会)	CBTバージョンのTEAP。	RL CBT W CBT S 吹き込み
IELTS (日本英語検定協会)	英語圏への留学や就労のための試験。	RL PBT W PBT S 対面式
GTEC (ベネッセコーポレーション)	4技能をスコア型の絶対評価で測定する。スピーキングとライティングは「英語話者」の視点による採点。	RL PBT W PBT S CBT
GTEC CBT (ベネッセコーポレーション)	上記のCBTバージョン	RL CBT W CBT S CBT
TOEFL iBT (ETS)	英語圏への留学希望者を対象。outputが苦手な日本人生徒は、得点しにくいと評価されている。	RL CBT W CBT S CBT
ケンブリッジ英語検定 (ケンブリッジ大学英語検定機構)	検定教科書のコミュニケーション英語Ⅰ、英語表現Ⅰに合致した内容。	RL PBT W PBT S 対面式

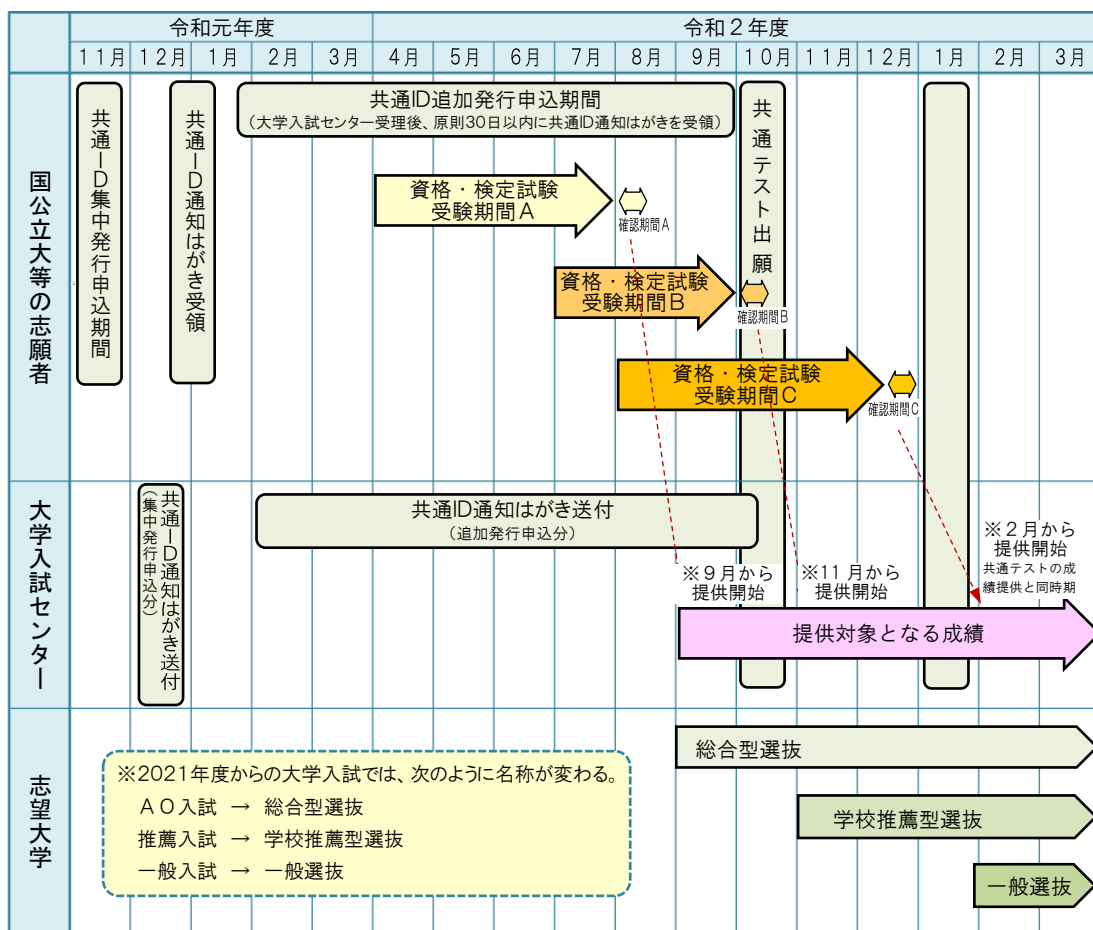
共通IDとは？

裏面に5年生が共通テストを受験するまでのスケジュールを載せた。早ければ4月から資格・検定試験の受験が始まる。大学受験は4月からスタートすると考えて、計画的に準備を進めていこう。

先程触れた成績提供システムだが、受験生の資格・検定試験のスコアを各大学へ提供するために「共通ID」を利用する。このため、来年の4月以降に受験する資格・検定試験で利用する共通IDの発行申し込みが11月から始まる。

この手続きは高校2年生(中等5年生)を対象に学校が一括して行う。共通IDの有効期間は2年間で、一浪までなら共通IDを取り直す必要ない。6年生は浪人しない限り必要ではないから、本校ではその手続きを6年生には行わない。万
一の場合は、追加発行申込期間(令和2年1月27日(月)～令和2年9月10日(木))に手続きをすれば問題はない。

■年間スケジュール ※成績の提供開始時期は、各実施団体により多少のずれがあります。要綱などで確認する必要があります。



資格・検定の利用パターン

資格・検定の利用方法は、出願要件、加点、出願要件&加点、得点化の4パターンに分かれる。

筑波大は加点方式でCEFR対照表に基づくレベルごとに最大20点を加点するシステムである。

筑波大学 2021年度一般選考における共通テスト英語成績の扱い

- 共通テスト・リーディング 100点満点を1.6倍して160点満点
- 共通テスト・リスニング 100点満点を0.4倍して 40点満点 合計200点満点
- これに、最大20点を加点する。200点を超える場合は、すべて200点扱いとする。

CEFRレベル	加点
C2	20点
C1	10点
B2	5点
B1以下	加点なし

東京都立大(20年4月校名変更予定)は個別試験で英語の試験は実施せず、共通テストのリーディング、リスニングの各得点と資格・検定のレベルに応じて換算した成績とを合わせて得点化する。具体的な換算方法などは未発表である。

私立大学に目を向けると、早稲田大学・政経学部一般選考は共通テスト(100点満点)と資格・検定及び学部独自問題(100点満点)の合計200点満点で実施される。資格・検定はCEFR対照表に基づき、最大15点が加算される。

早稲田大学・政経学部 2021年度一般選考における共通テスト英語成績の扱い

- 共通テスト100点満点
- 外国語、国語、数学Ⅰ 数学A、選択(地歴・公民、数学Ⅱ 数学B、理科から1科目)各25点
- 資格・検定15点満点+学部独自試験85点満点=100点満点 合計200点満点
- ※学部独自試験は1科目のみを90分間で実施。日英両言語による長文を読み解いたうえで解答する形式とし、記述解答を含む。

CEFRレベル	加点
C1 以上	15点
B2	10～14点
B1	5～9点
A2	0～4点
A1以下	0点

※ さらに細かな換算表が大学ホームページで公開されている。

以上、資格・検定の扱いが公表されている大学2例を紹介したが、多くの大学では都立大と同様に、資格・検定を扱う方向性は決まっているものの、具体的な換算方法などに関しては検討中となっている。

資格・検定は何を受験する？

英検S-CBT、英検CBTは、従来型の英検と問題形式などは全く同じである。私立大の英語4技能テスト利用型選考でも、利用できる大学・学部数は最多で、英検を受験しておけば間違いないと言える。教材も多く、利用しやすいだろう。

GTECは対策本が少ないが、英検よりも自分には合うと思っている人も多いだろう。受験料が安いのも魅力だ。

TEAPは英検協会と上智大が共同開発したもので、上智大TEAP利用型選抜を受験する場合は必須だが、英検に比べると入学試験における採用率は若干低い。過去問の公開がなく、対策本も少ないが、もともとTEAPで受験しようと考えている人ならば、わざわざ他を受ける必要はないだろう。

IELTS、TOEFL iBTは共に英語圏への留学や就労を目的とした検定という点、ケンブリッジ英検は過去問非公開で準備ににくい点が敬遠材料になると思われる。

情報収集に努めよう

英語資格・検定試験の大学入学選抜への利用は、現段階では不明な点が多く、各大学のホームページで21年度入試情報を調べようとすると、詳細は検討中というメッセージを見かけることも多い。最終的には来年の7月までには入試要項が発表されるが、4月から資格・検定試験の受験が始まるので、遅くとも年度末の3月までには、各大学から詳細が順次発表されるはずだ。

尚、英語成績提供システムを利用しない選抜方式では、すでに取得している資格・検定試験の級やスコアも有効である。従来型の英検も利用可能だ。すべての大学についての情報を春告草の紙面で伝えるのは難しいので、志望大学の入試情報などは各自で集めよう。

■CEFR対照表

各種資格・検定のスコア・級を統一基準で評価するため、下の対照表が提供されている。

文部科学省(平成30年3月)

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200 (230) (210)			9.0 8.5				
C1	199 180 (190) (180)	3299 2600 (3299) (2630) 1級	1400 1350 (1400)	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160 (170) (160)	2599 2300 (2599) (2304) 準1級	1349 1190 (1280)	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140 (150) (140)	2299 1950 (2299) (1980) 2級	1189 960 (1080) CBT	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120 (130) (120)	1949 1700 (1949) (1728) 準2級	959 690 (840) Advanced		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100 (110) (100)	1699 1400 (1699) (1456) 3級	689 270 (270) Core					620 320

は各級合格スコア

※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対応関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

- 表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に対応する能力を有していると認定できないことを意味する。
- ※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及び GTEC は複数の試験から構成されており、それぞれの試験が CEFR との対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合には CEFR の判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられている CEFR の判定が行われる。
- ※ 障害等のある受験生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合の CEFR との対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。